

らっかせい

一般的には、殻がついた状態のものを落花生、炒った状態のものをピーナッツと呼ぶことが多いです。脂質と良質のタンパク質が多く含まれており、ミネラル分やビタミン類といった栄養素がバランスよく含まれています。

6月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「生き生き健康野菜づくり」より

雑草図鑑 アゼムシロ・イヌタデ

6月の農作業

作型 25℃以上の高温と強い日光で良く育つ。直まきは鳥害で欠株になりやすいので注意する。過湿地では生育しないので、排水対策をする。石灰質肥料を多目に施す。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
春植え (春まき)						○	—	—	—	—	—	—	千葉半立・タチマサリ

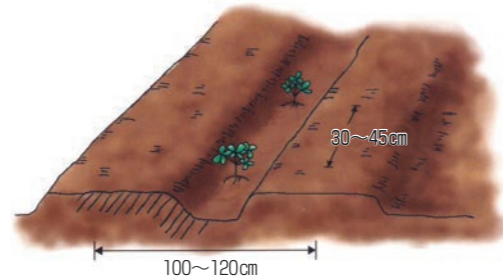
○：種まき ■■：収穫

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	15~20kg
ようりん	5~7kg
播種(植え付け)1ヶ月前位に土と良く混合	

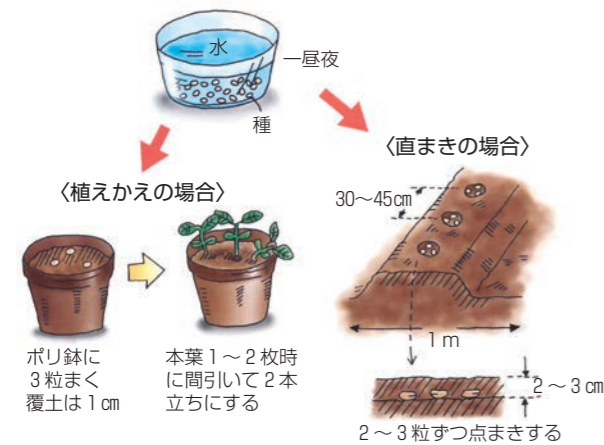
- 畝幅100~120cm
株間30~45cm(1条植)

苗の植え付け…(本葉2枚の頃に植え付ける)
• 土寄せする分を見越して溝を作り、溝の中に苗を植える



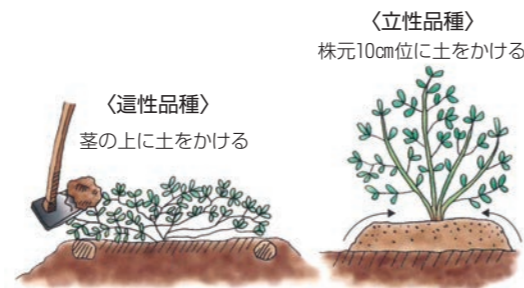
種まき

- 殻をむいた種子を一昼夜水に浸しておく。



土寄せ・追肥

- 花が咲き始めた頃と、株の半分位の花が咲いた頃の2回、土寄せする。
- 追肥は本葉5~6枚の頃、野菜専用肥料2~3kg/a畝肩に施す。



防除

病虫害名	耕種防除	薬剤防除
褐斑病	連作を避ける 無病種子を用いる	ダコニール1000 (500倍) 14日前4回
アブラムシ類	スミチオン乳剤	1000~2000倍 21日前4回
マメシクイガ	スミチオン乳剤	1000~1500倍 21日前4回

収穫

- 10月中旬頃、茎や葉が黄色くなって下葉が少し枯れ落ちたら、1株試し掘りをして、さやが充実に、網目が現れていたら収穫適期である。
- 掘り取った株を水洗いして2~3日日光に当て乾燥させる。

アゼムシロ

キキョウ科の多年生雑草でミゾカクシともいわれている。全国に発生するが暖地、温暖地の乾田直播栽培では水稻の生育初期に蔓延しやすい。3月下旬から発生し、5月上旬には匍匐茎の伸長が始まり、茎が地表面につくと節から容易に発根する。生育には湿潤条件を好むが、乾燥や湛水条件にも比較的強い。裸地条件では地表面に張りつくが、群落の中や密生した場合には立ち上がる。耕起等により茎が切断されても再生しやすい。葉は互生し、長円形で縁には浅い切れ込みがある。根は20cmほどまで伸長するが細根が密生するのは表層だけである。花は淡い赤紫色で花弁の先は5枚に切れ込み、目立つ。花期は6~10月と比較的長く、株もとから順に咲く。種子は赤褐色、広卵形で長さ約0.3mm。



圃場に群生するアゼムシロ



開花期

アゼムシロの花

防除のポイント

畦畔除草を丁寧に行い、稲刈取り後は反転耕を行う。水稻用土壌処理剤の効果は低い。

イヌタデ

畑や樹園地などいたる所によくみられる一年草で、ハナタデやアカノマンマの俗称がある。春から夏にかけて長期間にわたって発生する。茎は円柱状で紅紫色をおびて、根元で分枝し、高さ30~60cmとなって地表をはったり、直立したりする。葉は皮針形で互生し、長さ4~8cmの大きさで、縁や裏面の脈上にも毛が生える。夏から秋に枝先や葉腋に密な花穂を出し、深裂したガクが紅紫色または白色の花弁のない小花を多数つける。サナエタデは、葉の表面に斑点があり、花期が比較的早いことで区別され、オオイヌタデは大形で花穂も大きい。種子は長さ5mmの三稜形で、春から夏につぎつぎと発芽してくる。



イヌタデの群生地



イヌタデ(花と実)

防除のポイント

バサグラン粒剤は全体もしくは雑草の生えている部分だけでも散布することができる。

※農薬使用の際は、使用方法・使用時期をよく確認して使用しましょう。